

I

■出題のねらい

2次方程式の解と係数の関係，数列，三角関数の合成，順列組合せの基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

まずまずの出来でしたが，少しの思い違いに端を発するような誤答が散見されました。

II

■出題のねらい

- (1) 図形と方程式および三角関数の基本的事項について問いました。
- (2) 対数の性質および関数の極限の基本的事項について問いました。

■採点講評

- (1) まずまずの出来でしたが，イとウの符号のミスが見受けられました。
また，エまで出来ている受験者は少なかったです。直線の傾きとタンジェントの関係をよく理解してください。
- (2) まずまずの出来でしたが，クを $\frac{1}{4}$ とする誤答がありました。
底の変換を正しく用いられるようにしましょう。

III

■出題のねらい

指数関数を題材にして、微分計算、増減、極値など微分に関する基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 微分計算はよくできていましたが、計算ミスが散見されました。基本的な計算力を身に付けておきましょう。
- (2) $e^x = 3$ から $x = \log 3$ を導くことができていない解答が散見されました。また、増減が逆になっている解答もありました。基本知識を身に付け、時間が許す限り解答を見直すよう心掛けてください。
- (3) 2次関数として考えるか、増減を調べるか、複数の方法があります。解答に不等号のイコールが入っていないものがありました。ケアレスミスに注意してください。

全体的に、計算ミスや符号ミスなどケアレスミスが目立ちました。

IV

■出題のねらい

- (1) 3次関数の微分・極値と方程式への応用、(2) 絶対値を含む方程式・不等式について基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 前半の微分と極小値をとる x の値はよくできていましたが、後半の方程式の解の個数を調べる問題を間違えた人が少なくありませんでした。よく出題される問題なので、確実に解けるようにしましょう。
- (2) 方程式の問題は大半の受験者ができていましたが、 -1 を解に加えていた人が目立ちました。場合分けの条件を満たすかどうかの確認を忘れています。また、 $x = -1$ を方程式に代入してみれば、簡単に誤答であることがわかります。

不等式の問題を間違えた人が多かったです。場合分けの条件と不等式の解を組み合わせ整理する際に間違えているようでした。

V

■出題のねらい

2次関数の接線と定積分を問う問題で、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) a の値は多くの人が求められていましたが、問題に要求されている接線の方程式を正しく解答していないものが散見されました。
- (3) 条件を満たす接線が2本あることを見逃したり、(接線の y 切片の値) $^2=4$ から(接線の y 切片の値) $=2$ だけを解くなど不完全な解答が目立ちました。
- (4) (3)まで正答できた人の多くは正答に至っていましたが、全体では少数にとどまりました。

I

■出題のねらい

災害時の被害者救出にゴキブリのようなロボットが適しているという新聞記事を出典とする総合問題です。□1～□3の空所補充では文法知識を問いました。□4は英文の内容把握に基づく空所補充です。□5, □6を正答するためには、英文の内容を適切に理解することが必要です。

■採点講評

□1と□2の正答率が低かったです。□1は譲歩の“as”構文です。書き言葉ではよく出てくる表現です。□2の“all told”「合計で」は難しい表現ですが、必ず目的語を必要とする“tell”の後ろに名詞がきていないことから、考えられるのは過去分詞のみということになります。それに気づいた人は、この表現自体は知らなくても正答できました。□3も、あまり正答できていませんでした。これは、前の節の内容を先行詞とする“which”の用法です。私たちが英語を発信するときにもよく用いる用法なので、しっかり覚えておきましょう。

II

■出題のねらい

4つの場面の会話の空所を補充する問題です。文法、語法の知識に加え、自然な会話の流れではどのような応答が最も適切なのかを判断しなければなりません。

■採点講評

□7はよくできていました。□9と□18の正答率が低かったです。□9の正答率は30%未満でした。□9は、「合計で9人になる」ということで“add up”を解答に考えた人が多かったようですが、その場合は“add up to”と“to”が必要です。また、日常のシーンというこの状況では、“add up to”よりも「～になる」という用法の“make”の方が適切です。□18の正答率が20%未満だったということは意外でした。「(午前11時の代わりに) 午前9時でどうでしょうか」という英文で、正答は“instead”ですが、「変更する」ことを意識しすぎてか“change”を選んだ人が多かったです。

III

■出題のねらい

棒グラフと円グラフが表していることを読み取り，英語による質問と選択肢の問題に答えます。すべて英語による出題ですが，難しいものではありません。

■採点講評

全体的によくできていました。その中で，20の正答率が最も低かったです。落ち着いてグラフを見れば誤答することはなかったと思います。

IV

■出題のねらい

出典は，日本の“guesthouses”についての現状を説明した新聞記事です。英語による質問，選択肢になっています。英文の量に圧倒されずに丁寧に英文を読むことが求められます。

■採点講評

22，23，25，27の正答率が低かったです。22は，「あなたが2人の友達と一緒に2泊するとしたら，どうなるか」を選ぶ問題ですが，選択肢①「あなた方一行は合計8,000円を払うことになるだろう」を選んだ人が多かったです。本文に「1泊1人当たり2,000円から4,000円」とあります。1人1泊2,000円としても，3人ですから1泊で6,000円，2泊なら12,000円かかることになります。3人だという点に気づかなかったのではないのでしょうか。23は，選択肢②“leave the ground”を選んだ人が多かったです。もちろん，これは“take off”の文字通りの意味ですが，ここでは“take off”を比喩的に用いています。正答は選択肢③“become popular”です。25の正答率が40%未満でした。“vacant”は基本的な語です。語彙を確実なものにしましょう。27は，3つとも完答できた人は10%未満でした。誤答の選択肢が多かったのは⑤と⑦です。⑤については，「50人まで収容できる」のではなく，本文では「50人以上，収容できる」と書かれています。⑦については，「改修の費用の全額」ではなく，本文では「改修の費用のいくらか」となっています。注意深く英文を読むことが大切です。

V

■出題のねらい

クモの新種発見について述べている英文を用いた並び替え問題です。英語の文構造の確かな知識が問われます。

■採点講評

全体的に正答率は低かったです。[28]と[31]が、特に難しかったようです。[28]は、選択肢③を選んだ人が多かったですが、③は4番目にこないで、その後の“guitar”につながりません。[31]は、完全な文の形になっていないので難しかったのだと思いますが、③以外の選択肢では、どれも後ろに続けようとするとおかしくなってしまいます。

該当部分の正しい並べ方は、次のようになります。

[28] ②the way ④Cash often ①dressed when ③he played

[29] ③which identified ②the tarantula ④as one ①of 14

[30] ②but had ④long been ①considered as ③another species

[31] ④combined with ①the location ③of the ②spider in

講評

I

出典 土居 健郎「『甘え』の構造」

「甘え」という言葉についての筆者の分析を述べた文章です。筆者の説明を前から順を追って確実に理解していくことが、内容を把握するためのポイントです。

問1【漢字問題】(解答番号は①～⑦)

正答を示しておきます。全問正答率は、3.8%でした。漢字問題は知っていれば必ず得点することができるので、たくさん練習しておきましょう。

a 出典 b 大胆 c 帰結 d 無縁 e 頻繁 f 媒介 g 現出

問2【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑧・⑨)

空欄Ⅰと空欄Ⅱは対であり、直前の段落にある、古代日本人にとって天は「地から隔絶したものではなく」の部分がヒントです。「日本人の天が」は空欄Ⅰにかかるようにみえますが、よく読めば空欄Ⅱにかかることが分かり、日本人の天が連続の天(空欄Ⅱ)であることが導き出せます。正答は空欄Ⅰが②、空欄Ⅱが④です。正答率は0%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑩)

この段落の内容からみると「発達の視点から見れば」という説明が文頭に置かれていると考えられるため、空欄Ⅲには⑥が入ります。正答率は15%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑪)

空欄アの前後の流れを理解した上で空欄アの次行を読めば、正答②が導かれます。正答率は49%でした。

問5【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑫)

この段落の最後の行から分かるように「恵み」について述べられている部分であるため、正答は④となります。正答率は49%でした。

問6【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑬)

「しかも」という接続詞から考えると、「自分と母親が別々の存在であることを知覚」することに加えて、乳児が甘える必然性を生じさせる内容が、空欄ウに入ることが分かります。正答は⑤です。正答率は43%でした。

問7【傍線部の説明 文脈理解】(解答番号は⑭)

傍線部Aの次の段落を読めば正答が④であることが分かります。正答率は89%でした。

問8【傍線部の説明 内容理解】（解答番号は15）

①は「事実上否定されて」が間違い、③では「心の中に閉じ込める」わけではないため間違い、④は「絶望して」が間違い、⑤は後半部分が間違いです。よって正答は②です。正答率は68%でした。

問9【傍線部の理由説明 文脈理解】（解答番号は16）

本文の内容とは異なる選択肢を選びます。正答は⑤です。正答率は64%でした。

問10【小見出し 内容理解】（解答番号は17）

「甘え」という言葉について、歴史をさかのぼって述べているため、正答は③です。正答率は43%でした。

問11【内容合致】（解答番号は18）

正答は③・⑦です。⑧を選択する間違いがみられますが、本文をよく読むと、古代日本人にとって天は畏るべきものではないことが分かります。正答率は21%でした。

II

出典 佐伯 啓思「西田幾多郎 無私の思想と日本人」

日本を代表する哲学者・西田幾多郎の「無私」の思想について読み解いた本です。わかりやすい言葉で論理的に書かれた文章ですから、文意をつかむのは難しくないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は19~23)

全問正答者はいませんでした。「習俗」、「述懐」の正答者が少なかったです。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は24・25)

空欄Ⅰは「常に権威は海外にあった」が、空欄Ⅱは直前の「輸入商人」や直後の「専門家」がヒントとなります。正答率はそれぞれ72%、30%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適当なものを選ぶ】(解答番号は26)

空欄アの7行前にある「日常性の世界」や直前の「日常の世界」を踏まえて考えると正答が導けます。③は「日常経験に実体を与える」が間違いです。正答率は28%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は27)

傍線部Aの直前の文をよく読めば③が正答であるとわかるはずですが。正答率は59%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は28)

直後の数文をよく読み、「隷従」の意味を考えれば正答は導けます。正答率は59%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は29)

丁寧に読めば空欄アの直前の文に正答があると容易に気づくことができます。正答率は77%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は30)

この問題も空欄アの直前の文に正答があります。正答率は83%でした。

問8【指示語の内容を考える問題】(解答番号は31)

内容的に西田哲学の話であることは自明です。正答率は55%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は32)

傍線部Fに続く文章で京都や京大の特質をつかめば簡単です。正答率は85%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は33)

8頁の後ろから2行目、9頁の1行目がヒントです。正答率は62%でした。

問11【内容を理解して小見出しを選択する問題】(解答番号は34)

①と②を選択した誤答が多数ありました。「西田にとっては、学問的研究はほとんど関心の対象ではなく」と本文にあるので①は誤答です。確かに著者は西田に共鳴してはいますが、京都・京大であったからこそ西田哲学が生まれたという話がここでの中心テーマです。正答率は21%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は35・36）

正答率は②が60%、⑧が17%でした。⑦や①、⑤を選択している受験者が散見されました。問11の講評にも書いた通り、学問的研究は西田の関心の対象外で、⑦は明らかに不正答。①は「欧米の学者にかしずいている」が、⑤は「欧米で……不可能」がそれぞれ本文の内容に合致しません。③、④、⑥、⑨は本文をよく読めば、いずれも本文中に記されていない内容が入っていることをたやすく確認できるでしょう。